麻布のナイトカルチャー、今昔①

平成28年（2016年）：「スクエアビル」跡

スクエアビル

映画「サタデー・ナイト・フィーバー」の大ヒットにより、世界的なディスコブームが巻き起こった1970年代後半から、90年代前半にかけて、六本木には数多のディスコがあった。なかでも、地下２階から地上10階までほとんどがディスコ、というスクエアビルは名所的な存在で、どの店も週末になると人であふれていた。
80年代後半からのバブル景気の崩壊に伴ってディスコブームも終焉を迎え、多くのディスコは閉店した。

スクエアビルにあった主なディスコ

キャステル、ファーマーズ・マーケット、ギゼ、サンバクラブ、スタジオ・ワン、チャクラマンダラ、ネペンタ、フーフー、キワニス、キッスレディオ、バレンティノス、玉椿、など。

六本木 PIT INN

昭和52年（1977年）、外苑東通り沿いのビルの地下１階に開店。フュージョン界の二大ギタリスト、リー・リトナー、ラリー・カールトン、日本を代表するサックスプレーヤー、渡辺貞夫をはじめ、山下達郎、吉田美奈子、坂本龍一、高中正義、上田正樹、柳ジョージ、桑名正博、桑名晴子、金子マリなど、錚々たるアーティストがライブを行なってきた。
夜になると、ビルの角にあった入り口の上部に赤く浮かんで見えた「PIT INN」のロゴは、灯りのともった東京タワー同様、街の風景の一部だった。
平成16年（2004年）、ビル建て替えのため、六本木PIT INNは27年の歴史に幕を下ろした。

平成28年（2016年）：「六本木ＰＩＴ ＩＮＮ」跡

昭和58年（1983年）：
インペリアル六本木

ジャズ、ロック、ソウル、ラテン、シャンソン…さまざまな音楽に彩られたレストランやバー、ライブハウス。演劇、ミュージカル、映画のレイトショーなど。麻布には、ネオンの輝きとともに幕を開ける豊かなナイトカルチャーがある。青春時代にディスコサウンドにときめき、最先端のクラブやライブハウスでエネルギーや熱気を体感した、そんな思い出をもつ人も少なくないかもしれない。
ナイトカルチャーを通して、ひと昔前の麻布をふりかえり、今を見つめてみた。

参考文献：『東京ディスコ80's＆90's』（K&Bパブリッシャーズ）、「PIT INNその歴史とミュージシャン－第２回：六本木ピットイン誕生から閉店までの物語」（Phile－web）

【麻布未来写真館】

麻布のナイトカルチャー、今昔②

平成28年（2016年）：西麻布交差点

1980 年代から90年代にかけて、レッドシューズやトゥールズバー、P・ピカソといった、先駆的なカフェバーやクラブなどが点在していた。

平成27年（2015年）：六本木交差点

秋の風物詩となったハロウィンナイト。

平成27年（2015年）：けやき坂イルミネーション

冬の夜に咲く華。

平成28年（2016年）：
西麻布3丁目「カサ・デル・ハポン」跡

古い洋館を改装し、平成6年（1994年）に開店したレストラン、カサ・デル・ハポン。1000日間の限定営業を予定していたが、隠れ家的な店の先駆けとして多くの人に愛され、平成16年（2004年）の春、老朽化のため建物が取り壊しとなるまで、その灯りをともし続けた。
洋館は昭和3年（1928年）に外交官・芳澤謙吉氏の私邸として建てられたもので、戦後、進駐してきた連合軍に接収されロシア人将校の居留所となり、その後は、台湾や香港関係の貿易会社が事務所として利用したり、中国大使公邸として使われていた時代もあったという。芳澤氏は元国連難民高等弁務官・緒方貞子氏の祖父にあたる。

夜の麻布の街が舞台になっている歌、あれこれ

曲名	アーティスト	リリース
六本木あたり	あい＆AKI	昭和 56 年（1981 年）
六本木心中	アン・ルイス	昭和 59 年（1984 年）
六本木ララバイ	内藤やす子	昭和 59 年（1984 年）
六本木ワルツ	フランク永井	昭和 60 年（1985 年）
雨の西麻布	とんねるず	昭和 60 年（1985 年）
六本木レイン	研ナオコ	昭和 60 年（1985 年）
六本木純情派	荻野目洋子	昭和 61 年（1986 年）
AZABU	矢沢永吉	平成 7 年（1995 年）
六本木海峡	すぎもとまさと	平成 22 年（2010 年）
六本木星屑	伊藤美裕	平成 23 年（2011 年）
口説きながら麻布十番	SDN48、みのもんた	平成 23 年（2011 年）
雨の六本木	DEEN	平成 25 年（2013 年）
六本木界隈・夢花火	山内惠介	平成 27 年（2015 年）

◆このほか、麻布十番や六本木が登場する歌に「暗闇坂むささび変化」（はっぴいえんど/昭和46年（1971年））、「六本木のベンちゃん」（小林克也＆ザ・ナンバーワン・バンド/昭和57年（1982年））、「しあわせって何だっけ」（明石家さんま/昭和61年（1986年））などがある。
◆「湯の町エレジー」「別れの磯千鳥」などのヒット曲で知られる歌手で作曲家の近江俊郎氏（1918年～1992年）は笄小学校出身。

参考文献：『駅がないのに流行り続ける「西麻布式」の秘密』（講談社）、『週刊新潮』（新潮社、2004年4月1日号173頁）